

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

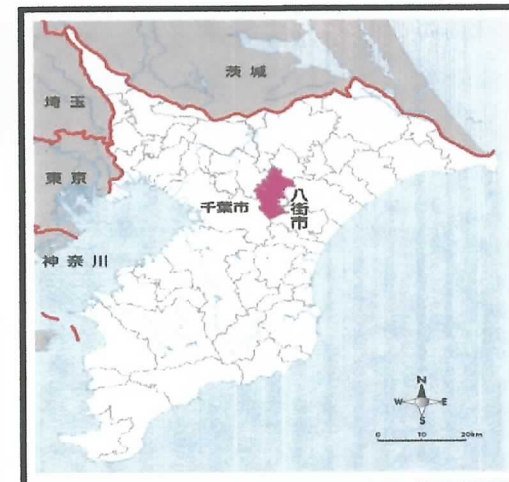
平成28年1月29日

協議会名:八街市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <p>①現在の路線の利用状況調査 ・八街市内循環バス(ふれあいバス)の乗降客調査:運行事業者が実施する乗降調査結果のとりまとめ及び分析。 ・ふれあいバス利用者アンケート調査(OD調査):ふれあいバス利用者を対象としたアンケート調査(乗車時に配布、回収)。</p> <p>②市民ニーズの把握調査 ・地域ごとの市民ニーズの把握(小学校区(8地区)単位での検討会):検討会での現状・課題・再編の考え方の説明、地域ニーズの把握。 ・地域ニーズの取りまとめ。</p> <p>③市内公共交通網の効率的見直し案の検討 ・公共交通再編の前提条件の整理:バス事業者等の再整理、その他前提条件の整理。 ・公共交通の採算性向上策の検討:先進事例の収集・整理、導入可能な採算性向上策の検討。 ・公共交通網(ふれあいバス等)の見直し案の検討。</p> <p>④地域公共交通網形成計画の取りまとめ ・パブリックコメントの実施。</p> <p>⑤協議会開催等事務</p> <p>【結果概要】</p> <p>・事業①及び②を実施し、市民のニーズ及び地域のニーズを取りまとめた。事業①、②の結果に基づき、事業③として、本市の地域公共交通に関する問題、課題を整理し、基本理念「市民生活の利便性を支える利用しやすい持続可能な地域公共交通体系の再構築」のもと、計画目標及び目標を達成するための事業の設定、市内循環バスの再編イメージを作成した。 ・事業③に基づき、事業④として「八街市地域公共交通網形成計画(素案)」を作成した。 ・上記事業を協議するため、八街市地域公共交通協議会を3回開催し、他に書面開催を1回開催した。</p>	<p>事業が計画どおり適切に実施された。</p> <p>A</p> <p>【未実施の事項の今後の予定】 2月に計画(案)についてパブリックコメントを実施し、3月に5回目の協議会を開催し、計画の策定を見込んでいる。</p>	<p>市内循環バスのターミナルを市の中心核であるJR八街駅に移設し、民間路線バスとターミナルを共有することにより、公共交通機関同士の乗り継ぎ強化、また、利便性の向上を図るとともに、市の中心部に市民を集め、まちの賑わい創出に繋げる。</p> <p>ターミナル機能の移設に併せ、市内循環バスの運行ルートを見直し、幹線を走る民間路線バスと支線を走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリアに区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすく速達性を高めた路線に再編するとともに市民生活に配慮した運行ダイヤを設定する。</p> <p>バス停まで歩くことが難しい高齢者等の移動手段を確保するため、地域の住民がグループでタクシーを利用する際に支払う運賃の一部を助成するグループタクシー(相乗りタクシー)制度の導入について検討する。地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を目指す。</p>

平成27年度 八街市地域公共交通協議会 (千葉県八街市) (地域公共交通調査事業)



概要

○公共交通の概況

八街市における公共交通には、八街駅と榎戸駅を結ぶJR総武本線、3事業者による民間路線バス4路線及び2事業者によるタクシーが運行されている。また、市内全域において八街市内循環バス(通称:ふれあいバス)5路線が運行されている。

民間路線バス及び市内循環バス等の公共交通の運行により、交通空白地域の解消が図られる一方で、人口ピークであった平成17年度を境に市内循環バス利用者は減少傾向にあり、市財政状況が悪化するなか、市が負担する運行経費についても検討課題となっており、収支率の健全性が求められている。

市全体として、自家用車に対する依存度が高い傾向にあるため、今後の更なる高齢化の進展により、自家用車を利用できない高齢者の増加が見込まれている。

また、バス停まで移動することが難しい高齢者等もいることから、民間路線バスや市内循環バス等に代わる移動手段を確保する必要がある。

面積	74.94 km ²
人口 (H27.4.1時点)	73,220人
15歳未満	8,153人
65歳以上	18,009人
高齢化率	24.6%
世帯数	30,675世帯

計画策定調査の必要性

市で運行している市内循環バス路線は交通空白地域の解消には一定程度寄与しているものの、網羅性を重視した運行ルートを設定した結果、速達性に欠け、運行頻度は低くなっており、市民ニーズや地域ニーズに応えられていない状況となっている。

市民生活にとって、より利便性の高い公共交通とするため、交通機関の利用状況、市民・利用者の意向や移動需要を把握することが重要であり、また、路線バスやタクシー交通との連携、採算性に配慮した市内交通網の効率的な見直しをするため、これらを踏まえた調査事業が必要である。

協議会開催状況

○協議会の開催状況 4回開催

- ・第1回(5月15日)書面開催
調査業務の事業実施者の選定について
- ・第2回(6月25日)
地域公共交通網形成計画の策定について
- ・第3回(10月19日)
調査業務の報告について
地域公共交通網形成計画骨子案について
- ・第4回(1月29日)

調査の内容

①現在の路線の利用状況調査

- ・市内循環バス(ふれあいバス)の乗降客調査:運行事業者が実施する乗降調査結果のとりまとめ及び分析。
- ・ふれあいバス利用者アンケート調査(OD調査):ふれあいバス利用者を対象としたアンケート調査(乗車時に配布、回収)。

②市民ニーズの把握調査

- ・地域ごとの市民ニーズの把握(小学校区(8地区)単位での検討会):検討会での現状・課題・再編の考え方の説明、地域ニーズの把握。
- ・地域ニーズの取りまとめ。

③市内公共交通網の効率的見直し案の検討

- ・公共交通再編の前提条件の整理:バス事業者等の再整理、その他前提条件の整理。
- ・公共交通の採算性向上策の検討:先進事例の収集・整理、導入可能な採算性向上策の検討。
- ・公共交通網(ふれあいバス等)の見直し案の検討。

④地域公共交通網形成計画の取りまとめ

- ・パブリックコメントの実施。

⑤協議会開催等事務

調査事業の結果概要

①現在の路線の利用状況調査 → 市内循環バス5路線について1ヶ月間の乗降調査、市内循環バス利用者550名を対象にOD調査を実施。

②市民ニーズの把握調査 → 市内8地区で地域公共交通に関する懇談会の開催及び出席者を対象にアンケート調査を実施。

③市内公共交通網の効率的見直し案の検討 → ①、②の調査結果を基に、市内公共交通網の見直し案を作成。

④地域公共交通網形成計画の取りまとめ → 計画(素案)の作成、2月にパブリックコメントを実施予定。

⑤協議会開催等事務 → 3回の協議会開催、別に書面開催を1回。3月に5回目の協議会を開催予定。

生活交通ネットワーク計画等の計画策定の方針

市内循環バスのターミナルを市の中心核であるJR八街駅に移設し、民間路線バスとターミナルを共有することにより、公共交通機関同士の乗り継ぎ強化、また、利便性の向上を図るとともに、市の中心部に市民を集め、まちの賑わい創出に繋げる。

ターミナル機能の移設に併せ、市内循環バスの運行ルートを見直し、幹線を走る民間路線バスと支線を走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリアに区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすく速達性を高めた路線に再編するとともに市民生活に配慮した運行ダイヤを設定する。

バス停まで歩くことが難しい高齢者等の移動手段を確保するため、地域の住民がグループでタクシーを利用する際に支払う運賃の一部を助成するグループタクシー(相乗りタクシー)制度の導入について検討する。地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を目指す。

次年度以降の取組概要

八街市地域公共交通網形成計画(3月策定予定)に基づき、平成28年度地域公共交通再編実施計画策定事業を活用し、八街市地域公共交通再編実施計画の策定を予定。

